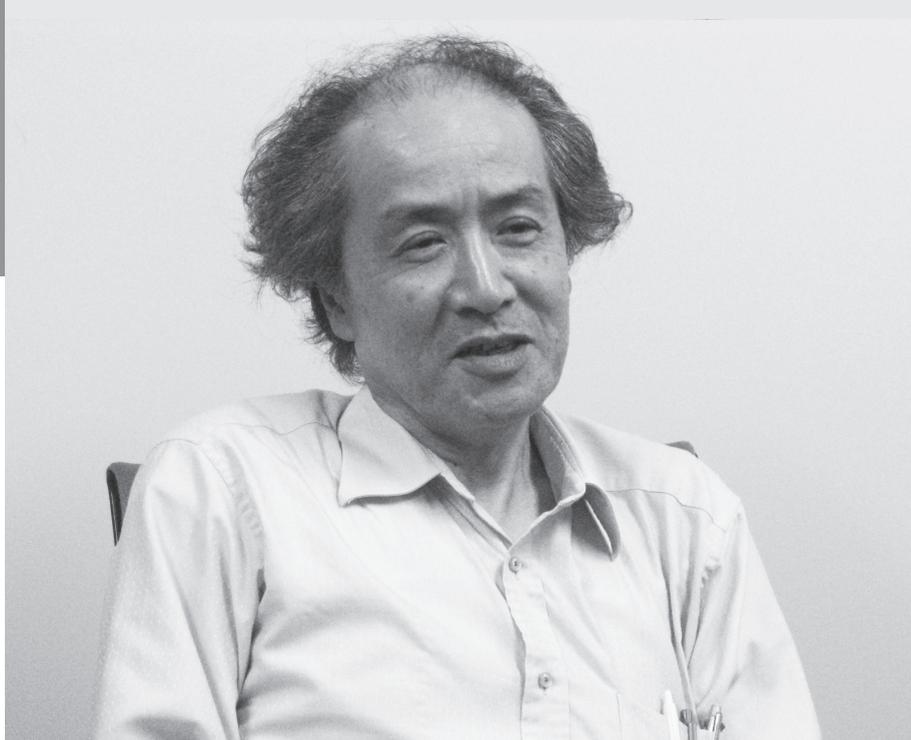


日光市民病院  
小池宏明先生



## JADECOMと共に夢を 追い続けた30年間に振り返って

聞き手：山田隆司 地域医療研究所長

### 地域医療振興協会創成

山田隆司(聞き手) 今日日光市民病院の小池宏明先生のお話を伺います。小池先生は地域医療振興協会の創成期から関わっていらっしゃるの、ぜひその頃のお話から、現在に至るお話を伺えたらと思います。

小池宏明 地域医療振興協会は今年で30周年を迎えたわけですが、当初は都道府県会館の6階に事務所があり、理事長を含めて総勢4人のスタッフでやっていました。その頃から細々と理事会をやっていたのですね。これからどういうふうにしていこうかという作戦会議のようなことをしたり、義務明け後の自治医科大学卒業生を支援する病院を確保したいということをお話し合っていました。

山田 旧い都道府県会館ですね。

小池 そうです。私はいつもサンダルとジーンズで行っていました(笑)。今の理事の方は吉野 浄生くらいしかいませんでしたが、1期生の奥野正孝先生はじめ綺羅星のごとく輝いていた人たちがいましたよ。

山田 当時から理事会で、みんなで話し合っていたわけですね。

小池 そういことです。

山田 でも法人は作ったけれど鳴かず飛ばずという状況だったわけですね。

小池 法人ということは理事を選ばなければいけないわけで、理事を選ぶと理事会をしなければいけない、総会をしなければいけない、というこ

とだったのだと思います。でも何もない時代がずっと続いて、ブラジルのサンパウロ医科大学とか、石油産油国に医師を派遣するとか、いろいろな話が出ては消え、出ては消えという感じでした。

それから私がいつも「ツルの恩返し」と冗談で言うのですが、山梨県の都留市立病院の話があって、吉新理事長(当時は会長でしたが)が都留に来て、都留の診療所で自治医大地域医療学教室の和座一弘先生と診療を始めたのです。その後山梨出身の村田暢宏先生、山田明雄先生や外科の安田是和先生らが引きつぎました。

その時に都留市立病院をわれわれにやらせたくない人たちが協会を批判したのですね。小さい団体でしたし、主に3つのことが問題となりました。1つは会長である「吉新通康」という人が、当時の医学界では全く知られていなかったこと(今でこそ知らない人はいない有名人ですが)。地域医療振興協会は病院経営の経験がなかったこと。そして病院の運営が定款に入っていなかったことです。そういうわけで結果的には大失敗に終わり、もともと何も持たなかったものが、そのまま持てなかっただけで失ったというわけではありませんでしたが、でもみんな落胆しました。やはり夢があったので。

では協会はどうしたらいいのだろうか?ということになり、まず吉新会長は吉新理事長になり、会長には自治医大の中尾喜久学長になっていた

だくことになりました。中尾喜久先生といったら医学界で知らない人はいませんから。

またちょうどその頃、茨城県の石岡第一病院をやってみないかという話が起きました。ぜひやりましょうということになりましたが、借金をしなければならなかったので、卒業生の1期生と2期生の30~40名が、もし潰れたら自分たちが一人1千万円ずつ返しますという署名をして提出した。それで自治医大が債務保証をしてくれることになり、石岡第一病院がスタートしました。吉新理事長はじめ吉野先生、大場義幸先生、佐藤純一先生、そしてとても懐かしい名前の何人かが石岡第一病院へ赴任し、頑張って黒字にした。それで自分たちの病院を持つことができたのですね。

その後の総会後の簡単なパーティーの席で、理事長から「伊豆の国立湊病院が地域に移譲になるので、今度そこへ行く。一緒に行かないか」と言われました。都留でのことがあったので「私も行きます」と手を挙げ、移譲する前の国立湊病院へ行くことにしました。それが「ツル(都留)の恩返し」なんだけど(笑)。

平成5年に国立湊病院へ赴任し移譲の準備を進めている最中に、群馬県の六合村が複合施設の六合温泉医療センターを作り、協会が管理委託を受けることになりました。その時に厚生省が定款変更を認めてくれました。

## 国が病院を持つ時代は終わった

山田 公設民営の管理委託の第1号は六合村でしたか。その時は同時に湊病院の話も進んでいたのですね。

小池 同時に進んでいて、その前提のもとに定款変更を認めてもらうことができました。都留のと

きにわれわれが批判された3つのものを、その時手に入れることができたわけです。

山田 先生は湊病院の最初のメンバーだったのですね。

小池 はい。理事長と自治医大の地域医療学教室か